

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	日田市大字東有田字町ノ坪		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりした時間の中で入居者のペースで過ごしたり、また、施設内の畑で四季折々の農作物収穫も楽しみの一つです。入居者と職員で年2回の味噌作りやらっきょう漬け等も四季を感じられる行事の一つです。2ユニットを活かし合同での食事会や外出・レクリエーションが行を行っています。週に1回カラオケ教室や習字教室に参加し他の利用者との交流を深めています。年に1回家族会を兼ねて食事会にご招待をし職員の手作りの美味しい食事をたくさん作り、家族と入居者との楽しいひと時を過ごしています。安全面と美化の観点から常に環境の整備に努め本人が安心して心安らかに生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者のこれまでの生活歴を大切にして、花や作物の栽培、味噌や漬物作りなどを職員が利用者と一緒に出来るような取り組みをしている。
 ・地域福祉の拠点として住民との交流を大切に、認知症の啓発や情報の提供に努め、住民の相談にも乗っている。
 ・レクリエーション行事、外出や買い物、カラオケやお習字教室など、楽しみごとを多く取り入れている。また、家族を招いての食事会や交流の時間を多く持っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念の基に全員が理解し日々の取り組み、理念を深く理解できるよう話し合っています。	開設当初に職員が参加して作った理念を、毎朝利用者を交えて唱和し、楽しく一日が始まるようにしている。気のついたことをミーティングで話し合い、実践できているか確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の文化祭・小学校・公民館行事でもある有田祭りに参加し、また、ひまわりが10月に秋祭りを開催し地域との交流を深めています。	地域福祉の拠点として住民との交流に力を入れており、地域の行事への参加、ボランティア活動の受け入れ、施設見学などを勤めている。また、住民との食事会を企画している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため小学校の生徒とお年寄りとのふれあいや、中学生の実習を受け入れています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に参加して頂いた行政・家族の意見や情報等をサービスの向上に活かせるように職員に周知しています。	運営推進会議は2カ月に1度開催され、参加者は市職員のほか、公民館長や自治会長など地域の人たちも参加し、運営に関する提案などももらっている。会議は事業報告のほか、テーマを決めて認知症の啓発や情報の提供なども行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会や市の職員等に相談し指導を頂いき、災害時等には、施設を避難場所として活用してもらえるようになっています。	市とは緊密な連絡を取り、施設を災害時の避難場所に指定してもらったり、徘徊フローチャートを共同で作成している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム協議会で、拘束についての勉強会をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	拘束について職員の理解を深めるため、グループホーム協議会で勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を通して学習し虐待防止をしないケアの取り組みを行っている。虐待防止についても職員間でも話し合いし取り組んでいます。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を通して学習し必要な方には利用して頂いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の方針、特に利用料金や起こりうるリスク、退去時の補修の必要な範囲等の説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて対応し、管理者・職員等に周知してサービスの向上に反映させています。	苦情相談窓口や意見箱を設け、家族の来訪時には意見を聞くようにしている。家族からの提案で歯科の訪問診療が実現している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話で職員の話聞き、業務等に反映しています。	月に1回の会議で職員の意見を聞き、改善すべき業務内容を検討している。勤務中の休憩場所についての職員の要望を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアが出来るように向上心をもち楽しく働くことが出来るように意見等の取り組み状況の把握をし、就業環境の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長が毎月発行する職員あてのコラム		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・九大ブロック等に参加し同業者との情報交換との交流、研修会等の活動においてサービスの向上に努めています。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所後も毎日の会話を通じて不安の徐去、信頼醸成に努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申込み時に家族からの相談があり不安・家族の要望・利用者の生活歴など聞くことで安心感をもってもらっています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来所されたとき併設施設や他の施設の情報を伝え安心できるサービスを提供しています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることやしていることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の利用者との交流の場が出来るように職員は支援しています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との面会の機会を多く持ってもらい、自宅に帰れない不安の軽減と家族の絆を大切にしている。年1・2回家族会で孫さんや子供たちにも参加してもらい家族とのふれあい、絆を大切にしています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や本人の希望による外泊・外出が行われたり、盆・正月の外泊・日帰り等近所の方とのふれあいの支援が出来るよう努めています。</p>	<p>家族の協力による外出や外泊が多くなるよう呼びかけ、また、近所の人や習い事の仲間などが訪ねて来てくれるように、機会あるごとの働きかけを行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>外出等利用者同士が手をつなぎ、お互いに支え合い孤立させないように職員が支援しています。毎週の向日葵でのカラオケ教室・習字教室に参加し利用者同士が交流を持ち支えあうよう支援に努めています。</p>		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所等では、お見舞いに行ったり状況に応じて経過をフォローし相談や支援に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を聞き入れ、困難な場合は、家族や関係者からの情報収集を得、本人本位に家族と検討をしている。	本人の生活歴や、好きなこと、得意なこと、嫌いなことなどを書き込んだ個別「支援マップ」を作成し、職員で共有して、ケアに活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集し、本人の馴染みのあるものを居室に持って来て頂き自分らしく安心して生活が出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック・体操等をし心身状態の把握に努めています。特に体調不良がある方には、頻繁にバイタルチェックをしています。本人・家族からの情報を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や職員間で話し合いを持ち家族会や面会時に家族の意見を聞き介護計画に反映している。	毎月モニタリングを行い、状態により3ヶ月、6ヶ月ごとの見直しを行っている。家族には、面会時や郵送による報告を行い意見を聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で状況を把握し介護に活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活になった時のため、又は現在在宅の方のために共用型デイサービスが利用できる。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>公民館館長より情報を頂き地域行事の参加や消防団の方より災害時に備えて近隣の消防団の方が駆けつけて下さるようになっていく。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医を利用でき、家族と協力しながら通院を行っている。</p>	<p>事業所の協力医のほか、利用者の望むかかりつけ医を受診している。3回に1回くらいは家族へ受診の付き添いをお願いし、利用者の健康状態を共有している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の変化に気づき併設の施設の看護師に相談したり、協力医療機関の医師に相談ができる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には利用者個人の情報を医療機関へ提供し、医療関係者より情報を収集をしたり退院後の相談・会議等を行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した方に対してその都度、家族に状況報告を行い、又、事前に緊急時や希望の医療機関を確認をしている。</p>	<p>重度化した段階で終末期における方針を家族と相談している。社会福祉法人なので、医療施設がなく、その為これまで家族が病院を希望する例がほとんどだったが、職員に語りながら看取りについての準備に着手している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急や吸引器の使用法を行っている。介護職員によるたんの吸引の研修の申込をしました。が応募者多数のため次回の申込となりました。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、4月・10月に消防署の協力で避難訓練で避難経路や消化器の扱いまた誘導の訓練をしています。地域との協力については、近隣の消防団の協力を得られるようになっていく。</p>	<p>避難経路や誘導の訓練、連絡先、消火器の取り扱いなどをマニュアル化し、全職員に確認させている。年2回の消防署の協力による避難訓練の実施のほか、日常的に近隣消防団に協力を働きかけを行っている。備蓄も2～3日分ある。</p>	

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族や利用者に対してプライバシーについて話さないように配慮しています。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの大切さを職員と話し合っている。	地域の方言の、馴染みがあるという良い面と、少し強く捉えられてしまうという悪い面に配慮し、言葉かけの工夫を行うことが期待される。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くように心がけ自己決定ができるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人が好きなおことをして過ごしています。日々安心して穏やかに生活が送れるように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり外出時には、口紅・その方にあったおしゃれができるように支援しています。職員といっしょに服を選ぶのも一つの楽しみにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買物に行き、職員といっしょに食事の準備をしています。お茶碗洗いも手伝って頂き、利用者の楽しみの一つです。食事の準備の途中で味見をして頂き美味しい料理を作っています。	三食とも手作りし、できる人には買い物や下ごしらえ、片づけを手伝ってもらっている。目標達成計画を作成し、改善を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、本人が摂取している食事量やカロリーについて注意し不足が見られたら食事以外でも摂取を考えています。自ら水分補給ができない方には状況に合わせて摂取できるよう記録をし支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は歯磨きを促し見守りをしている。介助が必要な方には毎食後口腔ケアをし清潔保持に努めています。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握し、本人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。自分でできる方は、見守りを行っています。	排泄パターンを把握し、誘導による自立支援を行っている。また、自分でできる人にはさりげない見守りを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が摂れるようにメニューや適度な運動に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり個浴に入り職員との会話を楽しみながら入浴しています。	毎日入るか、1日おきにほとんどの人が入浴できている。嫌がる人はなく、体調を見ながら清拭や部分浴、ウォッシュレットによる清潔保持を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の空気の入替えやお天気の良い日は布団を干したりし、室温調節の管理等を行い快適に安眠や休息が出来るように支援に努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の目的を職員が理解し都度様子を見て確認をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・カラオケ教室・習字教室等に行き他の利用者との交流をもち気分転換ができるように支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と夕食の買い物や全員で戸外に外出をしています。外に出ることで季節を感じることが出来ます。	気候のいい時はほとんど毎日、全員が買い物や散歩など、1度は外に出るようにしている。寒い時期は外出が難しくなるので、天気が良ければ、臨機応変に対応し、車で出かけるなどの工夫もしている。	

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない利用者がほとんどです。本人のお小遣いは、職員管理で行い、買物に行くときにお金を預かっていることを伝えることもあります。(お金を持っていないから何にも買えないと訴える方がいる)		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段は家族の面会がありますが、本人の希望で電話をかけることもあります。家族から電話をかけて来て下さり本人に取りつぎを行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や野菜を植えて収穫するときに季節感を味わっていただいています。新緑や紅葉の時期に外出・散歩等をし季節感を体で感じて頂いています。	職員と一緒に植えた花をフロアに飾ったり、柿などを干したりして季節の喜びを感じられるようにしている。居間や浴室、トイレなども安全に使えるように整備されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間でコミュニケーションの場所をつくり個々の時間は自室で過ごして頂いています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には仏壇を持ってきたり家族や本人の意思を聞きいれ馴染みの物等を生活に入れ安全な環境づくりをしています。	一人ひとりの好みを大切にした居室づくりを考え、馴染みの品や大事な物を周りに置くことを勧めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に入浴できるようにリフト浴の整備や利用者の状況に合わせて、手すりや浴室トイレ、廊下の設備を行い利用者が安全で使いやすさを確認しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400393		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホームひまわり ユニット2		
所在地	日田市大字東有田字町ノ坪		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりした時間の中で入居者のペースで過ごしたり、また、施設内の畑で四季折々の農作物収穫も楽しみの一つです。入居者と職員で年2回の味噌作りやらっきょう漬け等も四季を感じられる行事の一つです。2ユニットを活かし合同での食事会や外出・レクリエーションが行を行っています。週に1回カラオケ教室や習字教室に参加し他の利用者との交流を深めています。年に1回家族会を兼ねて食事に招待をし職員の手作りの美味しい食事をたくさん作り、家族と入居者との楽しいひと時を過ごしています。安全面と美化の観点から常に環境の整備に努め本人が安心して心安らかに生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉の拠点として公正で開かれた施設運営に努めるとの理念の基に全員が理解し日々の取り組み、理念を深く理解できるよう話し合っています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の文化祭・小学校・公民館行事でもある有田祭りに参加し、また、ひまわりが10月に秋祭りを開催し地域との交流を深めています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のため小学校の生徒とお年寄りとのふれあいや、中学生の実習を受け入れています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に参加して頂いた行政・家族の意見や情報等をサービスの向上に活かせるように職員に周知しています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会や市の職員等に相談し指導を頂いき、災害時等には、施設を避難場所として活用してもらえるようになっています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム協議会で、拘束についての勉強会をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を通して学習し虐待防止をしないケアの取り組みを行っている。虐待防止についても職員間でも話し合い取り組んでいます。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を通して学習し必要な方には利用して頂いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の方針、特に利用料金や起こりうるリスク、退去時の補修の必要な範囲等の説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて対応し、管理者・職員等に周知してサービスの向上に反映させています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話で職員の話聞き、業務等に反映しています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者にとって良いケアが出来るように向上心を持ち楽しく働くことが出来るように意見等の取り組み状況の把握をし、就業環境の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長が毎月発行する職員あてのコラム		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・九大ブロック等に参加し同業者との情報交換との交流、研修会等の活動においてサービスの向上に努めています。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所後も毎日の会話を通じて不安の徐去、信頼醸成に努めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申込み時に家族からの相談があり不安・家族の要望・利用者の生活歴など聞くことで安心感をもってもらっています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来所されたとき併設施設や他の施設の情報を伝え安心できるサービスを提供しています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>要望や意向をその都度確認しながら本人の出来ることやしていることを大切に、日常生活の中で会話を増やし、他の利用者との交流の場が出来るように職員は支援しています。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との面会の機会を多く持ってもらい、自宅に帰れない不安の軽減と家族の絆を大切にしている。年1・2回家族会で孫さんや子供たちにも参加してもらい家族とのふれあい、絆を大切にしています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や本人の希望による外泊・外出が行われたり、盆・正月の外泊・日帰り等近所の方とのふれあいの支援が出来るよう努めています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>外出等利用者同士が手をつなぎ、お互いに支え合い孤立させないように職員が支援しています。毎週の向日葵でのカラオケ教室・習字教室に参加し利用者同士が交流を持ち支えあうよう支援に努めています。</p>		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所等では、お見舞いに行ったり状況に応じて経過をフォローし相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を聞き入れ、困難な場合は、家族や関係者からの情報収集を得、本人本位に家族と検討をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集し、本人の馴染みのあるものを居室に持って来て頂き自分らしく安心して生活が出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック・体操等をし心身状態の把握に努めています。特に体調不良がある方には、頻繁にバイタルチェックをしています。本人・家族からの情報を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や職員間で話し合いを持ち家族会や面会時に家族の意見を聞き介護計画に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で状況を把握し介護に活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活になった時のため、又は現在在宅の方のために共用型デイサービスが利用できる。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>公民館館長より情報を頂き地域行事の参加や消防団の方より災害時に備えて近隣の消防団の方が駆けつけて下さるようになっていく。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医を利用でき、家族と協力しながら通院を行っている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の変化に気づき併設の施設の看護師に相談したり、協力医療機関の医師に相談ができる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には利用者個人の情報を医療機関へ提供し、医療関係者より情報を収集をしたり退院後の相談・会議等を行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した方に対してその都度、家族に状況報告を行い、又、事前に緊急時や希望の医療機関を確認をしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急や吸引器の使用法を行っている。介護職員によるたんの吸引の研修の申込をしましたが応募者多数のため次回の申込となりました。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、4月・10月に消防署の協力で避難訓練で避難経路や消化器の扱いまた誘導の訓練をしています。地域との協力については、近隣の消防団の協力を得られるようになっています。</p>		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族や利用者に対してプライバシーについて話さないように配慮しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞くように心がけ自己決定ができるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人が好きなおことをして過ごしています。日々安心して穏やかに生活が送れるように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり外出時には、口紅・その方にあったおしゃれができるように支援しています。職員といっしょに服を選ぶのも一つの楽しみにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買物に行き、職員といっしょに食事の準備をしています。お茶碗洗いも手伝って頂き、利用者の楽しみの一つです。食事の準備の途中で味見をして頂き美味しい料理を作っています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、本人が摂取している食事量やカロリーについて注意し不足が見られたら食事以外でも摂取を考えています。自ら水分補給ができない方には状況に合わせて摂取できるよう記録をし支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は歯磨きを促し見守りをしている。介助が必要な方には毎食後口腔ケアをし清潔保持に努めています。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握し、本人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。自分でできる方は、見守りを行っています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が摂れるようにメニューや適度な運動に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり個浴に入り職員との会話を楽しみながら入浴しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の空気の入替えやお天気の良い日は布団を干したりし、室温調節の管理等を行い快適に安眠や休息が出来るように支援に努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の目的を職員が理解し都度様子を見て確認をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・カラオケ教室・習字教室等に行き他の利用者との交流をもち気分転換ができるように支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と夕食の買い物や全員で戸外に外出をしています。外に出ることで季節を感じることが出来ます。		

事業者名: グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない利用者がほとんどです。本人のお小遣いは、職員管理で行い、買物に行くときにお金を預かっていることを伝えることもあります。(お金を持っていないから何にも買えないと訴える方がいる)		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段は家族の面会がありますが、本人の希望で電話をかけることもあります。家族から電話をかけて来て下さり本人に取りつぎを行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や野菜を植えて収穫するときに季節感を味わっていただいています。新緑や紅葉の時期に外出・散歩等をし季節感を体で感じて頂いています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間でコミュニケーションの場所をつくり個々の時間は自室で過ごして頂いています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には仏壇を持ってきたり家族や本人の意思を聞き入れ馴染みの物等を生活に入れ安全な環境づくりをしています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に入浴できるようにリフト浴の整備や利用者の状況に合わせて、手すりや浴室トイレ、廊下の設備を行い利用者が安全で使いやすさを確認しています。		